

縄文住居復元と史跡公園

第1回 縄文住居復元と史跡公園

日時 2013年11月30日

場所 石川四高記念文化交流館 多目的利用室3

1. 高田和徳（御所野縄文公園／世界遺産登録推進室）「縄文時代の建物復元の方法と課題：岩手県御所野遺跡の事例から」
2. ジョン・アートル（金沢大学国際文化資源学研究センター）「考古学の多様性と縄文住居復元」
3. 対話「縄文住居復元と史跡公園」

セミナーシリーズ第1回はジョン・アートルの近年の関心をもとにしている。アートルは考古学的知識の生成と変容過程を端的かつ象徴的に示すものとして復元住居に着目しており、その成果の一端は「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」の報告書「Ethnography of Archaeology」(Fujii and Ertl eds. 2013、国際文化資源学研究センター発行の雑誌『金沢大学文化資源学研究』第7号として刊行)に見ることができる。アートルがセミナーシリーズ第1回で行った研究発表は、上記報告を併読するとより理解することができる。

第1回ゲストスピーカーの高田和徳氏が長年取り組んできた岩手県御所野縄文公園は、上記研究でのアートルの調査フィールドのひとつでもあった。そうした縁もあり、高田氏をお呼びして議論を広げることに第1回の主眼はあった。チラシのメインとなる写真には、御所野縄文公園の土屋根復元住居を配置した。第1回でチラシデザインのフォーマットを固めて以降、セミナー広報のためのチラシ作成はメインとなるイメージを各回で変えているだけである。

第1回は企画から開催まで間がなく、広報期間が十分に取れなかったが、青森県からの問い合わせもあった他、結果的に長野県や関東地方からの参加者もあり、本テーマの関心の高さを示すことになった。これらの問い合わせ、遠方からの参加者は、今まさに復元住居や遺跡公園における復元の諸問題に取り組んでいると同時に苦悩もあり、そのことが高い関心につながったのであろう。セミナー開催後も、史跡公園整備も事業内容に含む会社担当者からの問い合わせがあり、当時は「内容をいずれ活性化します」とお答えする他なかった。開催から3年以上が経過してしましたが、こうして企画者の一人として最低限の責を果たしたことに安堵している。

文化資源学セミナー Seminar on Cultural Resource Studies
主催：金沢大学人文学部社会文化資源学国際文化資源学研究センター
共催：金沢大学人文学部社会文化資源学国際文化資源学推進室
『考古学と現代社会』第1回
Archaeology and Contemporary Society - Representation of Archaeology in Japan 1
縄文住居復元と史跡公園 Jomon Dwelling Reconstructions and Historical Park

金沢大学 国際文化資源学研究センター
International Center for Cultural Resource Studies

2013
11 / 30
(土)
13:30 ~ 17:00

1 高田 和徳 TAKADA Kazunori
御所野・岡野遺跡発掘調査 岩手県史跡調査課
岩手県御所野遺跡の事例から
Historical and Ethnographic Professions of Jomon Dwelling Reconstructions
Case Study of Goshino Site, Iwate Prefecture.

2 ジョン・アートル John Ertl
国際文化資源学研究センター
考古学の多様性と縄文住居復元
Archaeological Diversity and Jomon Dwelling Reconstructions

3 対話: 高田 和徳 × ジョン・アートル × 参加者
司会: 吉岡 泰寿 YOSHIDA Taishu
国際文化資源学研究センター
Dialogues: Archaeologist & Anthropologist & Participants

会場：石川四高記念文化交流館 多目的利用室3
石川県石川市高野町1-1-1
お問い合わせ：事務局
Tel: 076-364-5802 E-Mail: yoshi@staff.kanazawa-u.ac.jp